

Rotary 2018-2019 国際ロータリー 第2790地区 第7グループ
成田空港南ロータリークラブ インスピレーションになる

ANA

昭和41年10月6日創立 / 昭和41年11月21日承認
 例会日時 毎週木曜 12:30 点鐘
 (夜間例会 18:30 点鐘)
 例会場 あづま庵

事務局
 〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6
 TEL 0479-80-1177 FAX 0479-80-1178
 第2790地区 ガバナー 横岡久太郎 第7グループ ガバナー補佐 高山義則

URL <http://www.narita-airport-m-rc.jp>
 E-mail info@narita-airport-m-rc.jp

平成 31 年 2 月 7 日 発行 NO. 2242 第 2396 例会 会長 高田 一行 幹事 杉森 幹男 会報委員長 小林 定雄

例会報告(平成 31 年 1 月 31 日)

点 鐘 副会長 内田裕雄
 ソング 「それでこそロータリー」
 唱和 「四つのテスト」
 副会長挨拶 副会長 高田一行
 幹事報告 幹事 杉森幹男
 プログラム

本日のお客様

さくら書道教室代表

そうさちいきしんぶん編集長 藤井結花様

卓話

さくら書道教室代表

そうさちいきしんぶん編集長 藤井結花様

各委員会報告

今日の会が成功裏に終わります様に、また、藤井様の卓話をよく聞いて勉強なさせて頂き、今日は有難うございました。宜しくお願いします。

幹事報告

①例会のお知らせ

- ・銚子 RC・茂原東 RC
- ・小見川 RC・多古 RC
- ・東金 RC・茂原中央 RC
- ・大網 RC・佐原香取 RC
- ・八日市場 RC

②会報受領クラブ

- ・旭 RC・小見川 RC・成田コスモポリタン RC
- ・東金ビュー RC

③ガバナー事務所より

- ・韓国での「第 20 回 RI 囲碁大会」のご案内
- ・新規奨学生の世話クラブとカウンセラーの引き受けについてのお願い
- ・2018 学年度米山記念奨学生・終了式及び歓送会のご案内

その他

- ・米山記念奨学会よりハイライトよねやま
- ・平成 30 年度 八匠少年少女発明クラブ修了式開催のご案内
- ・2 月のロータリーレート 1 ドル=110 円
- ・公益財団法人ロータリー日本財団より 確定申告用寄付金領収証が届いています
- ・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より 確定申告用領収証が届いています。



副会長挨拶



皆さんこんにちは。雨の中、会にご参加を頂きまして、大変有難うございます。今日は高田さんが体調不良の為に、代理でやって下さいと言われてまして、今日の代理を務めさせて頂きます。宜しくお願い申し上げます。今日は特に、石田さんのご配慮によって、そうさちいきしんぶん編集長の藤井結花様に卓話をして頂きます。今日は大変有難うございます。



藤井結花様

皆さんこんにちは。改めまして『さくら書道教室代表』『そうさちいきしんぶん編集長』をしております、藤井結花と申します。今日は貴重なお時間ありがとうございます。皆さんが楽しんで帰って頂ける様に頑張りますので宜しくお願いします。

まず最初に私を知らない方がほとんどだと思いますので自己紹介をさせて下さい。名前は藤井結花と言いますが、現在 27 歳になります。私も一経営者ですが、今日は経営者さん達、経営者の大先輩という事で、その前でお話しする事は恐縮ですが、今日はすごく楽しみにして来ました。

私は「そうさちいきしんぶん」という、匝瑳市の魅力的な人を紹介する手書きの新聞を書いています。それがいろいろなメディアの方に注目されまして、去年は 3 回ほど講演会をしました。1 回目が匝瑳市の校長会・教頭会という勉強会に行きまして、そこで 80 分「子供たちの事について・教育について」を話しました。2 回目が匝瑳市の商工会の方で、倫理法人会さんの所でお話させていただきました。倫理法人会という事で「心のこと」などをお話しました。11/10 に匝瑳市主催で市長さん達もお見えの中、定員 100 人のところ 117 名集まりまして、匝瑳市の皆さんの前で「そうさちいきしんぶんの発行までの道のり」とか「これからの思い・これから書道教室でやっていきたいこと」未来のこととかをお話させて頂きました。

そんな風にやってきましたが、ビジネスの話をしていないのです。先ほどもご紹介にありましたが、私の生まれた家が「有限会社 豊国」と言っていて、もやし製造業をしています。生まれた時から、夕飯の時間になるとおじちゃんとお父さんとか、家族みんなが経営の話をするのです。ビジネスの話をしていて、お客さんに対して自分がこういう思いを持って

いるとか、そういう話が日常だったのです。そういう環境で英才教育みたいな感じで育ったので、高校生の時から「きっと私も何かで起業するんだろうな」と思っていました。その頃から、私のバイブルは「松下幸之助」「稲盛和夫」という、ちょっと変わった高校生でした。そんな感じで高校・大学と行きまして、25 歳の時に「さくら書道教室」という教室を開業しまして、起業、やっぱり経営者の道に進むという方向になりました。なので本当に父にはとてもとても感謝しているのですが、その趣味でもある経営の勉強・経営の話を今日は出来ると思って、皆さんに楽しんでもらえるようなお話を用意していきますので楽しみにして下さい。

今日は「さくら書道教室」の話と「そうさちいきしんぶん」という新聞のお話、それから私が思っているビジネスの話を「若い視点からは、今こういう風な世界を見ているよ」という一つの視点として皆さんに捉えて頂けたら嬉しいなと思います。

まず最初にさくら書道教室の話をさせて下さい。私は 5 歳で書道を始めて、ずっと書道をやっておりました。大東文化大学文学部書道学科を卒業しまして、4 年間書道の勉強をして教員免許を取得して、最初は千葉県の公立高校・茂原樟陽高校が 1 校目、掛け持ちで東金高校の定時制にも行っていました。2 年目はおやま市立銚子高校に行きました。3 年目は書道教室開業と被るのですが、東総工業に行

って、現在はフリーで、書道教室一本で経営をしています。最初、書道教室を始めたいと思った時に

「匝瑳市」というのは絶対でした。「匝瑳市に私は絶対に開く」というのがあって。と言うのは「地域貢献」というワードを生きている上で掲げていることなのです。なんで地域貢献・匝瑳市にこだわっているのかというと、私の家はもやし屋なのですが、私が生まれてすぐにお産が原因で母が亡くなりました。なので母がいない中で育ちました。今は育ての母が年長の時に来てくれて、とても愛情を注いで育ててもらったのですが、母という存在を知らなくて、その代わりに地域の人達皆に助けられながら育ちました。親戚だったり近所のおじちゃん、石田さんもそうですがいろんな人の手を借りながら、いろんなところに行っているような経験をさせてもらって育ったのです。それをずっと「ありがたいな、ありがたいな」と思っていたのですが、大人になったら「絶対にこの街に何か恩返しをしてあげたい」と思うようになったのです。そこから、もう絶対に私は

匝瑳市に書道教室を建てて、何かちょっとかもしれないけど経済貢献をするというのを掲げていたので匝瑳市にこだわりました。最初は「匝瑳市で書道教室をやって生徒さん集まるのか」とすごく反対されました。子供がいないのも人口が減っているのも分かっています。成田とか人口が沢山いるところで開いた方が、生徒さんが集まるんじゃないかという意見も沢山聞きましたが、私は匝瑳市にこだわっていました。ご縁があって、今は匝瑳市の米倉という地域で平屋の古民家をお借りして、書道教室を始めております。現在の状況は、開業してまだ1年ちょっと位で現在60名以上の生徒さんが通っております。大人の方が20名以上、半数以上が子供です。今子供の募集をストップしてしまっていて、キャンセル待ちが10名程おります。対応できないのは困っていますが、ありがたい話だなと思います。初めは全然生徒さんが集まりませんでした。生活ができません。東総工業で非常勤講師の仕事をしていましたが、夏休みに授業がなくなると収入がゼロになります。授業に行くと、その分のお金をもらっているのでアルバイトと同じような感じです。そんな状況でしたので、生活していかないとならないと思って、個人で、字を書く仕事を何でも取りました。新しい仕事なので、労力と時間がかかりました。1から調べてやるとなったらすごく時間がかかってしまってハードワークになりました。休むとお金が入ってこない不安から、沢山仕事をしたら7月頃に「めまい・吐き気・動悸」が一日中していて、8月に右耳が聞こえなくなりました。お医者さんに「突発性難聴です」と言われて、ドクターストップになりました。そこでやっと休みました。休んでいる時にいろいろと考え「好きなことをして生きよう」と決めて、仕事を断っていきましました。その中で「何が本当に自分がやりたいのか」と思った時に「地域貢献」というワードが出てきて、そこで「新聞を書こう」と思いつきました。自分がやっている事業だとか自分の事とかをいろいろな人に知ってもらう事が一番難しいと痛感しました。いろいろな世代、いろいろな人に知ってもらうには何がいいのだろう？携帯でSNSも沢山使いました。でも、届く世代は20代30代で、おじいちゃんや子供には届いていない状況だったので、新聞を手書きで書こうと思いました。とにかく手書きにこだわりました。手書きなら絶対に読んでもらえると自信があったのです。ポストの中に、活字のものばかりの中に手書きの新聞が

あったら見ますよね？最後まで読んでもらえる自信があったので、「よし、新聞を書こう」と。私を紹介する新聞ではおかしいので、私が紹介したいと思う人の所に取材に行って新聞を書き始めたのが、そうさちいきしんぶんの始まりでした。最初は500部で赤字です。500部刷って、朝からウォーキングがてらポスティングをしていました。好きな言葉で「運動」という言葉があるのですが、運動は「運」を「動かす」と書きます。何か足で動いていたら、何か運が動いて何か奇跡みたいなことが起きるんじゃないかと思って「何か起きろ」と思いながら、朝5時から6時の間ポスティングしていました。そしたら、動いたのです。私は成田山書道美術館にすごくお世話になっていて、そこの方から「メディアの方が来るから飲み会に来ない？」と誘われて行ったら、読売新聞の記者さん、everyのカメラマンさん、共同通信・ニュースの大元の記者さんがいました。その中で、新聞を書いていることを言ったら、今度取材させてと言われ、後日本当に読売新聞の記者さんが取材に来ました。そこで取材を受けまして、5段にわたって私のちいきしんぶんの活動が紹介される記事が出ました。ちいきしんぶん初号は匿名でやっていたので、親戚中から「結果がやっと出たね」と電話がかかってきました。新聞社さんからも連絡が来て、八日市場の橋本新聞店という新聞配給会社さんが「是非全面協力させてくれ」という事で、初号500部だったのが5000部の増刷が決まりました。印刷・折り込みを無償で、今後も無償でやりますと言って頂いて、第2号・第3号はもう一つの匝瑳市の鎌形新聞店さんもお協力して頂いて、現在は7500部を地域の人達のおかげで発行しております。7500部発行は個人では凄いことだと新聞社さんが言ってくださいました。絶望の淵から生まれたそうさちいきしんぶんなのですが、いろいろなメディアから報道がありました。読売さん、千葉日報さん、朝日新聞さん、産経新聞さんだったり、いろいろなブログで紹介してもらったりといろいろな所で私の活動を紹介して下さっていて、そのおかげで書道教室にも生徒さんが集まってとなりました。最近は入会してくれる生徒さんは「先生の考えに共感して来ました」「藤井先生に、私は書道を教わりたいです」と言ってくれます。私はフェイスブックやインスタグラム、携帯でいろいろな情報発信をしています。その中で、私の考えや私の思いとかを重点的に発信しています。なので「さくら書道教室

Instagram」と検索をすると、一つの投稿が長く「生徒さんへの思い」「保護者さんへの思い」「子供達への思い」とか書いている記事がいっぱい出てくると思いますが、「私の心を皆さんに伝える」という活動をしています。通ってきてくれる生徒さんは「ここに来ると安心する」「嫌なことあったけど先生の顔を見たら元気になりました」と言って来てくれます。とある発達障害のお子さんを持つ保護者さんは「先生に全面的におまかせします」と言って下さいます。「私は、先生がいろいろな事に挑戦して、いろいろな事を思い思っ、いろいろな活動をしている、その背中を子供たちに見せたい、ただそれだけで書道教室に通わせています」と言って下さいます。すごくありがたいことだと思います。うちの生徒さんは、書道を習いたいという事にお金を払っているのではなく、私という人・生徒さん同士の関わり、そういう所にお金を支払っているのだなどというのは、開業してみてもすごく感じます。人にお金を払うとか、人の関係性にお金を支払うというのは、ビジネスの上では最強だと思うのです。例え話があって、商店街で人がいなくなりシャッター一街になった時、最後に残るお店は何だと思いませんか？これはスナックなのだそうです。有名な若手起業家さんが「スナック最強論」を掲げておられて、ママに会いに、ママと会話をして話を聞いてもらって、楽しい気分を味わいにお金を落としに行くのです。ママは人生経験豊富で、いろいろな話をしてくれるので楽しいし、聞き上手だからすごくいろいろな事を聞き出してきて、話していて楽しいのです。ママが酔いつぶれて仕事が出来ないほどの時が来た時に、お客さんが率先してお酒を作ってグラスを片付けて楽しそうにお金を置いて帰っていく。これは凄くないですか？お店なのに、お店とお客さんの境界線がはっきりしてなくて曖昧になっているのです。それはビジネスにおいてすごく画期的だし特殊な場所だと思うのです。あとはスナックのママだったり常連客の人達とお話をしてお金を皆さんは支払っていくのですよね。それって物にお金を支払ってないのですよね？人は、絆にお金を支払いたがると思うのです。スナックという場は、商売の場というより一つのコミュニティの場になっているのではないかなと思っていて、職場でもなく家でもなくスナック。そういう第三の居場所みたいなものを人々は求めているんじゃないかなと思っています。話を書道教室に戻しますが、私は人が大好きで

す。書道は人と関わるコミュニケーションツールの一つだとしか思っていないのです。とにかく人と関わりたい。何か書道教室の方針転換をしたいとか変えたいと思う時は生徒さん、保護者さん、子供たちにどんどん意見を聞きます。いいと思ったら採用という運営をしています。よく私が言うのが「この書道教室という空間を、皆で楽しい場所にしていきましょう」と言います。「私が楽しくするのではなくて、皆ひとりひとりが意識をもって楽しい場にしていきましょう」という風に言うのです。こうすると、書道教室というものが他人事ではなくて自分事になっていくのです。そうすると、これはスナックと同じじゃないですか？第三の居場所になっていくのです。今、経営の勉強をしているいろいろな起業家さん達の話聞いて思うのは、今現代、第三の場所・第三の居場所みたいなものを人々は皆求めているんじゃないかなと思っています。今現代もので溢れていますよね。お金を出せば物は簡単に手に入ってしまう。お金を出しても手に入らないものは、人なのです。絆だったりするのです。物商機から人商機へという時代になっているなと思っています。これからカフェを開くのですが、コーヒーを売りにするのではなくて「人」ベースに経営をしていくようなビジネスモデルをこれから作っていきたいと思っています。そんな時代だからこそ、嘘は付けないなと思うのです。SNSとかで政治家や芸能人の嘘が暴かれている時代に嘘を付いて生きるのは、ナンセンス・時代錯誤だと思っています。私は常に、書道家でもありますので、人格を磨いていかなければならないなと思っています。あとは人に感謝を忘れない。「感謝」を大事だと思っています。「いつもありがとう」と思いますが、「更にありがとうと思えるようにならない」と、常々思っております。現代、人間としての価値が試される時代になっていくのだろうなと思います。私は若輩者で経営も2年も経っていないですが、今日この場で皆さんにお話をさせて頂けたので、何か一つでも経営や生きる上でのヒントを持って帰って頂けたら嬉しいと思います。確実に次にスナック行く時の皆さんの気持ちは変わるでしょう。堂々と「この空間にお金を落としているんだな」と、スナックに行くことに誇りを持ってください。まだまだ若輩者ですが「さくら書道教室」「そうさちいきしんぶん」「地域貢献」のワードを掲げて、これからも経営をしていこうと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

委員会報告

◇米山記念奨学委員会



委員長 富 一美

皆様こんにちは。地区並びにクラブの米山委員長と致しまして直近のご報告をさせていただきます。

1月12日に諸岡年度・次年度の米山奨学生の面接選考試験を実施致しました。

枠：25名 2年継続：6名 新規：19名

新規奨学生を20数名の面接官と、補助の方をお願いをして選考をしまして、翌13日に判定会を開いて最終的に決定をいたしました。その後、米山奨学生並びにカウンセラーに来て頂きまして、新年懇談会を開催いたしました。半年間のカウンセラーさんと奨学生さんに、各3分～5分位ずつ談話・お話を頂戴いたしました。

3月9日に、米山奨学生の終了式を実施する予定でございます。

第6グループのガバナー補佐から基調講演をお願いされまして、1時間15分程やらせて頂くことになりました。

大網RC会員 四之宮由己様より

「医療技術の進歩」

今日は私の心臓の脈拍数が低すぎたために、ペースメーカーを入れたお話をいたします。

私達の通常の脈拍数は、1分間に60～70回ぐらいが正常と聞いております。

私のかかりつけの佐久間医院で測定しましたところ、平均が40回ぐらいの数字でしたので、先生から、ふらふらしませんか？とか、体重を減らすようにとか、水分補給をかかさないとかのアドバイスはされておりました。11月中旬の測定時には、36回という低い数値が出ました。

先生も心配して、東千葉メディカルセンターへ紹介状を書くから行くようにと奨められました。担当医の若林先生に再検査して頂きましたところ、脈拍数は30回とさらに少なく、心臓を写すカメラで見た心臓の働きが、ゆっくりゆっくりと動いているのが写し出されて、これが自分の心臓だろうか聞き直しました。

若林先生は、急いでペースメーカーを入れる（植え込み）ことを奨めてくれました。

病名は、（徐脈性心房細動）だそうです。

四之宮さんは、刺激伝導系に問題があり、脈拍の遅れを感知すると正常に保つよう補助的に電気信号を送る（リードスペースメーカー）という医療機器を植え込む方法が良いと説明してくれました。

（ペースメーカー）は、2種類ありまして、今まではリード付きペースメーカーのタイプしかありませんでしたが、2017年リードスペースメーカーが登場しました。

リードスペースメーカーは…

（小さなカプセル型をしており

大きさは直径7mm×長さ約26mm

重さは約2gで（1円玉2枚ぐら

い）電池の寿命12年）だそうです。 ほぼ実寸大



リードスペースメーカーは、右ももの付け根の所から大きな血管（静脈）を通して、心臓の近くまでカテーテルを入れて運びます。

心臓の右心室の壁に固定し、正常な作動する事を確認してからカテーテルを抜きます。

局所麻酔ですから、どこまで入っているか、今何をしているかがわかります。

一般手術のように切開しないため、大きな傷口も残らず、1時間ぐらいの手術で終わりました。ベッドに帰って来た時の事も、意識の中にはっきりわかっておりまして、ホッとしておりました。

後は、右ももの付け根の傷口からの出血を止める事を優先し、右足を上げずに静かにしている事を心掛けていれば、早く治りますと言われました。

手術日（11月21日）の翌々日の午後には退院し、すべて順調に経過しまして、手術した事を知らなかった方々も多かったのではと思っております。

このように近代医学の進歩はめざましく、命拾いした私は、手術をして良かったと心から思っております。

東千葉メディカルセンターの立派な施設、入院室の
利便性も素晴らしく、さすが近代的な病院が私達の
身近にある事が誠に心強い限りです。

そして、お世話になった佐久間先生、若林先生、手
術を下さり画像まで提供してくれた施行医の金
枝先生、上田先生の技術力の高さに感心しておりました。

又、入院室では、寝ずに看病してくれた看護師の
方々にも厚くお礼を申し上げます。

このたびの4日間の入院生活では、家族の有り難さを
改めてしみじみと感じた次第です。特に本納に嫁
に出した一人娘の活躍がめざましく、介護士の免許
を持っているためか、送迎から受付、医師との対
応、入院の手続き、入院準備、会計、市役所との身
体障害者の手続き、ペースメーカー手帳、カードの発
行、注意事項まで、すべての事を1人でやってくれ
て、私はほとんど何もせずただ付いて行っただけ
でした。

この4日間の出来事は、日頃の自分の不摂生から起
きた事で、今後の自分の生き方に指針を与えてくれ
ました。気付くのが遅いのですが、健康には十分気
を付けて余生を送りたいと思っております。皆様方
も体調管理には十分気をつけて、毎日をお過ごしな
されますようお願い致します。

■ ニコニコボックス

青柳 誠君・越川 忠君・土屋俊夫君・内田裕雄君
小林定雄君・石田喜一君・行木英夫君・伊藤元雄君
杉森幹男君・渡邊孝文君・上原広嗣君

…藤井さん、卓話ありがとうございます。

富 一美君

…新年会に参加できず、すみませんでした。

本日計	12,000 円
累 計	446,003 円

■ 出席報告

例会日	会員数	出席	出席率に 用いる数	%
1月31日	32	15	31	48.39

☆ 欠席をしたらメイクアップをしましょう ☆